

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--|---------|-------------|
| 事業所番号 | 4072800321 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 さくら | | |
| 事業所名 | グループホーム さくら | | |
| 所在地 | 〒809-0032 福岡県中間市中尾三丁目10番25号 TEL 093-246-0260 | | |
| 自己評価作成日 | 令和02年11月11日 | 評価結果確定日 | 令和03年02月09日 |

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294 | | |
| 訪問調査日 | 令和03年01月26日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成29年3月にグループホームなかおを開設しました。グループホームさくらの利用者にとって他のグループホームとの交流が出来、たいへん喜ばれています。またスタッフ達もお互いの仕事の在り方を話し合う機会もでき日々成長していると感じます。今後も地域の方々との交流・ふれあいを深めグループホームの在り方を理解していただけるよう頑張りたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「さくら」は、認知症高齢者が安心して暮らせる第2の「わが家」として、19年前に開設された定員9名のグループホームである。利用者と職員が一緒に料理出来るオープンキッチン、車椅子の方にも十分な広さの3ヶ所のトイレ、食堂と一緒に化した広いスペースを確保した居間等、利用者が快適で安心して暮らせる環境を整えている。利用者が重度化しても、シャワーだけ身体の芯まで温まる最新式のシャワー設備を設置し、清潔保持に取り組んでいる。提携医療機関医師による月2回の往診と週1回の訪問看護師、看護職員、介護職員との連携で、24時間安心の医療体制が整っている。働きやすい職場環境を整え、管理者を中心に、利用者本位のチーム介護に取り組むグループホーム「さくら」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|--|---|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,21) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しづつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない |
| 62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外 部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|--------------------|--------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | グループホームの意義を踏まえた運営理念を定めている。その運営理念の中に地域との関わり方について定めている。 | 「自分らしく生活したい」という利用者の気持ちを尊重し、安心して暮らせるグループホームを目指す事を理念に掲げている。職員会議の中で理念を振り返り、職員一人ひとりが理念の意義や目的を理解して、利用者の自律に向けた暮らしの支援を通して、職員が一丸となって介護サービスに取り組むグループホームである。 | 初心に返り、理念を唱和したり、確認する機会を設け、日々行っている介護サービスの柱として職員に定着させ、パンフレットやホームページ便りに記載して外部への周知を図っていく事を期待したい。 |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入し交流を図っている。また教育機関の実習先として様々な世代間交流を図り入居者との接点を作っている。 | 町内会に加入し、代表が地域の一員として地域との関係を築いている。回覧板で、地域の色々な情報を目にしたり、外出時に近所の方と挨拶を交わす等、日常的な関りを大切にしている。 | 学生の実習やボランティアの受け入れ、地域の行事や活動へ参加し、交流しながら地域の一員として、地域に根ざしたホームを目指していく事を期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の高校の介護福祉科の実習先として登録し交流も兼ねて青年育成に力を注いでいる。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度年に6回運営推進会議を行ない、幅広い意見交換等を行っている。また、市の職員より良い施設づくりについて常に模索している。 | コロナ対策以前は、運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加して、2ヶ月毎に開催している。ホームからは利用者の状況、行事内容、行事予定を報告し、包括支援センターからは、毎月第3火曜日に開催している「にじいろカフェ」の案内を受ける等、情報交換に取り組んでいる。 | 家族や地域代表、その他広く参加委員を募り、議題についても、勉強会や体験型(避難訓練、試食会、予防体操等)を取り入れる等工夫して、有意義な会議を目指す取り組を期待したい。 |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市町村担当者と連絡を取り回答をいただきサービスに活用している。また中間市GH会に参加し定期的に会議を行ない情報の共有を図っている。 | 運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得て、ホームの実情を伝え、情報提供やアドバイスを受ける等、協力関係を築いている。管理者は、ホームの空き状況や事故等の報告を行政に行い、疑問点があれば行政担当窓口に相談している。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 運営推進会議に合わせて身体拘束適正化委員会を実施し身体拘束廃止に努めている。事業所でマニュアルを作成しスタッフに指導し、研修を行っている。 | 身体拘束の職員研修を年2回実施することが義務化され、今まで以上に熱心に取り組み、身体拘束となる具体的な禁止行為を確認し、職員間の周知を図っている。運営推進会議の中で、身体拘束適正化委員会を通して毎回報告を行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 事業所でマニュアルを作成し各スタッフにマニュアルに基づいて指導している。研修も実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|----|----|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | |
| 8 | 6 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 実践者研修等の研修を活用し、学んだ内容を施設内で研修会を通じて職員と共有している。 | 過去に成年後見制度を活用していた利用者がいたことや、外部研修を受講する事で制度について学び、職員会議の中で伝達研修を行い、職員間で周知を図り共通理解に努めている。また、日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料やパンフレットを用意して、必要時には関係機関と協力し、制度を活用出来るよう支援している。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要説明事項・契約書を家族に説明をし、理解・納得していただき署名・捺印して頂いている。また解約の際は契約書等を基に対応している。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族の訪問の際に利用者に関する生活状況、健康状態等報告している。家族の意見、要望もお聞きし対応している。 | 職員は、日常の関わりの中で利用者の意見や要望の把握に努めている。家族については、月1回の支払に来訪してもらい、その機会に職員が家族とコミュニケーションを取りながら意見や要望を聴き取り検討し、ホーム運営に反映させている。また、遠方の家族とも電話で連絡を取り、意見や要望を聞き取っている。 | コロナ終息後は、家族が参加できる行事(お花見やそうめん流し、夏祭り、敬老会、餅つき、忘年会等)や家族交流会を実施し、共に利用者を支える関係作りに取り組み、ホーム便りの復活を期待したい。 |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフ会議を実施し、職員の意見・要望等出し合っている。 | 職員会議を2ヶ月毎に開催し、カンファレンスや勉強会を行なっている。職員の意見や提案が出しやすい雰囲気作りを心掛け、職員からは、利用者の現状や心配な事を報告し、活発な意見交換が行われている。出された意見は出来る事から速やかに実行し、職員の意欲に繋げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている | スタッフ会議や慰労会を随時行い、職員の意見を聞く機会を設けている。また希望の休みや有休消化等、本人の希望に添い職場環境づくりに努めている。 | | |
| 13 | 9 | ○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 募集、採用については充分な面接を行ない、採用予定者の要望等と管理規定を照らし合わせて採用している。 | 職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限ではなく、人柄や介護に対する考え方を優先している。職員の定年ではなく、子育て中の職員が子供と一緒に勤務出来る環境を整えたり、時短勤務の受け入れ等、職員の希望で働く職場作りに努め職員の定着に繋げている。 | |
| 14 | 10 | ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 事業所でマニュアルを作成し各スタッフにマニュアルに基づいて指導している。研修も実施している。 | 外部の人権研修に代表が参加し、内部研修で伝達している。利用者の人権を尊重する介護サービスについて、職員会議や申し送りの中で、その都度話し合い、利用者の生活習慣や個性を尊重したケアに取り組んでいる。また、理念の中に「自分らしい暮らし」を掲載し、ホームの中で利用者が安心して暮らせる支援に取り組んでいる。 | |

| 自己 外 部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------|--|---|------|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | シフト上可能な限り地域包括支援センター主催の研修会に参加し、スタッフ会議において研修の情報を伝えている。 | | |
| 16 | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 現在市内に5ヵ所のグループホームがあり、GH会を立ち上げ3カ月に1度集まり課題について討論している。また緊急性の高い相談者は他事業者と連携して対応するなどネットワーク作りにも取り組んでいる。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 17 | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 認知症の方々なのでサービス導入する段階で本人が決定するのは困難と思われる。常に家族同席のもと要望、不安困っていること等十分に話し合う時間を作っている。 | | |
| 18 | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に本人の話を十分に聞き、本人の思いを考え生活歴等把握した上でグループホームの内容について分かりやすく説明を行ない十分に理解していただき、安心して入居ができるよう努めている。 | | |
| 19 | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 施設見学や入居相談に来られた際、本人や家族の実情や要望を聞き、必要に応じて他のサービス利用も含めて話をしている。 | | |
| 20 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日々の生活を通じてお互いに対する理解を深め、互いに支えあう関係が築けるように努めている。 | | |
| 21 | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会の回数が多くスタッフも家族が来るたびにコミュニケーションを図っている。その際、要望や不安についても聞き取るように心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------------------|----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族や馴染みの方が面会に来られた際は感染予防対策をし交流することが出来るよう支援している。 | 近所の方が訪ねて来られたり、週に1回利用者が家族と一緒に外出される等の関係が、ホーム入居によって途切れないよう支援に努めている。また、近所に開設した同法人のグループホームとの交流により、新しい利用者同士の馴染みの関係を築いている。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日常生活の中でy王者同士のトラブルを未然に防ぐために席の配置を変更する等して対応している。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去されても継続的に面会に行ったり、家族に連絡を取って現在の状況について把握したり、本人・家族と関係を続けている。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常から本人の思いや意向を聞き取りを行っているが主にケアプラン更新時に面談を行ない、細かな思いや以降の把握に努めている。 | 職員は利用者とコミュニケーションを取り、何でも話しあえる関係を築き利用者の思いや意向を聴き取り、職員間で共有し日常介護に反映させている。意向表出が難しい利用者には、過去のアセスメントを読み返し、家族に相談しながら利用者の思いに近づく努力をしている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人を理解するため入居前に生活歴や生活環境等の把握を目的に本人・家族との話し合う時間を十分に設けるようにしている。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | まず性格を把握し趣味や健康状態の把握をし、家庭生活に慣れていただくように努めている。また主治医や家族との連携に努めている。 | | |
| 28 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画の作成は家族・本人・ケアマネ等と十分話し合い、基本情報、アセスメントを行ない認知症介護計画書を作成している。定期的なモニタリングを行っている。また介護士からも情報を収集し心身の把握に努めている。 | 入居時は、介護計画の見直しを2ヶ月で行い評価をしている。利用者や家族の意見や要望を聴いて職員間で話し合い、主治医からの助言を参考に、利用者本位の介護計画を1年毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医、関係者と話し合い、現状に即した介護計画の見直しをその都度行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | スタッフ会議において必要時にケアについて話し合いを行ない情報の共有に努めている。またサービス提供記録、業務日誌を参考に職員からの情報等で見直しに活かしている。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人家族の現状を把握できるように本人・家族・職員間で話し合いの機会を大切にしその時々の状況に応じて柔軟に対応するように努めている。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 定期的なイベントを行っている。 | | |
| 32 | 14 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医は本人・家族の希望を尊重している。本人・家族同意のもと定期的に協力医療機関が1ヶ月に2回往診していただいている。 | 入居時に利用者や家族と話し合い、それぞれの希望を尊重して主治医を決めている。現在は、全員ホーム提携医療機関の医師が主治医となり、月2回の往診を受けている。訪問看護師との連携で、24時間安心の医療体制が整っている。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護と契約をし、週に1回は訪問していただいている。また必要時には主治医の指示の下に処置を行なう体制にしている。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した場合は、お見舞いを兼ねて様子を見に行きアセスメント等の情報を本人または家族の同意を得て提供し、病院関係者との連携に努める。また家族や入院先の病院と密に連絡を取りながら早期退院できるよう努めている。 | | |
| 35 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期には提携医に意見を求めながら家族との話し合いの場を持ち、今後の方針について決めている。また全員で方針を共有出来る様努めている。 | 重度化や終末期に向けた方針について、契約時に利用者や家族に説明し、終末期の意向を確認している。利用者の重度化に伴い、家族と密に連絡を取りながら、主治医を交えて今後の方針を確認し、利用者の終末期が安心して過ごせる環境整備に取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事業所でマニュアルを作成し、各スタッフに指導している。 | | |
| 37 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2度避難訓練を行ない避難誘導がスムーズに行えるよう努めている。また事業所でマニュアルを作成し各スタッフに指導している。 | 年2回、避難訓練を実施し、1回は消防署の協力を得て行っている。マニュアルに基づき、スムーズに避難誘導出来るように取り組み、日中想定の場合、職員が多いので短時間で避難が完了している。非常時には、利用者9名の情報をまとめたファイルを持って出事を徹底している。 | 実際に夜勤をする職員対象で、夜間想定の訓練を行い、大雨や台風、地震等、他の災害についても検討し、地域との協力体制を築いていくことを期待したい。また、非常食、飲料水の備蓄も望まれる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるため日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 尊敬の念を持ちながら入居者1人1人を尊重して声掛け誘導等本人を傷つけないよう配慮している。 | 利用者のプライバシーを守る介護サービスについて、利用者一人ひとりを尊重した対応を心掛けている。特に、言葉遣いや対応に注意し、排泄や入浴時の介助では、利用者の羞恥心やプライドに配慮したケアを行っている。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が職員に説明し周知が図られている。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の要望についてその都度状況を見ながら出来る限り要望に沿えるよう支援している。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 可能な限り本人の意思を尊重して臨機応変に対応する様に努めている。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 家族付き添いのもと外出の折に昔からのなじみの店を利用される等入居者の自己決定を尊重している。 | | |
| 42 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 身体状況に合わせた食事形態を提供し出来るだけ自分でご飯が食べれるように支援している。 | 食事は、献立に沿って配達される食材を使い、利用者それぞれの状態に合わせた形態で提供し、出来るだけ自分の力で食べる事ができるよう見守りをしながら支援している。また、利用者の力に応じて、台拭きや食器拭き等を手伝ってもらっている。 | 利用者と一緒に、簡単な料理やおやつを作りながら食べる食レクや外食等、「食」を楽しむ事のできる取り組を期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 身体状況に合わせて刻み食や水分にとろみをつけるなど無理なく摂取が出来るように支援している。また食事や水分の摂取量を把握し必要に応じて声掛けを行なっている。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 利用者全員に毎食後口腔ケアを行っている。義歯の方にはその都度対応している。また協力歯科医院の往診により必要に応じて受診できるように努めている。 | | |
| 45 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェックにより排泄パターンを把握し必要に応じて声掛け誘導を行ないトイレでの排泄を可能な限り支援している。 | 職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、重度化してもトイレで排泄することを基本とし、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。また、夜間は、利用者の希望や体調に配慮しながら、利用者一人ひとりに合わせた排泄の支援に取り組んでいる。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェックにより排便状況を把握している。また栄養バランスの取れた食事を日々取り入れて運動を行ない、水分摂取をこまめに行なうなど便秘予防に努めている。 | | |
| 47 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまはずに、個々にそった支援をしている | 出来る限り個別に合わせて要望に応える事が出来るように配慮している。 | 入浴は利用者の希望や体調に配慮して、少なくとも週2回は入浴できるよう取り組んでいる。身体を包みこむように湯が出て身体が芯まで温まるシャワーを設置し、重度の方も安全に気持ちよく入浴を楽しめるよう配慮している。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中はリビングで過ごされることが多いが、本人の意思を尊重して居室で休まれるように配慮を行っている。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 主治医の指示のもと、減らすことが出来る薬は本人の状態を見ながら減らしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 出来る限り自分で出来る事は自分で行ってもらえるように支援することで、少しでも自立した生活が過ごせるように支援している。 | | |
| 51 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出や散歩の希望がある場合はその日の気候等を考慮しながら可能な限り対応出来る様努めている。 | 天気の良い日には、利用者の希望や体調に配慮しながら、散歩や花見、ドライブ、買い物に出かける等、利用者の気分転換を図っている。また、玄関前のテーブルとベンチを利用し、気候の良い時期には日光浴や茶話会を楽しむ等、外の風に当たる機会を設け利用者の生きる力を引き出している。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在金銭管理を自分でされている方はおらず、必要時は家族確認のもと柔軟に対応するように努めている。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は掛ける事がほとんどないが、家族やなじみのある方からかかってきた場合は取次して会話している。 | | |
| 54 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | テレビ音量や番組、照明に配慮したり、花を生けたり当季節感や生活感に配慮し居心地よく過ごしていただけるよう努めている。 | 手入れの行き届いた玄関から室内に入ると、天窓から差し込む日差しで明るく開放的なりビングで、利用者と職員が一緒に体操したり、歌を唄う等利用者の明るい笑顔が印象的である。室内には、季節に合わせた小物を飾り、利用者が季節を五感で感じ取る共用空間である。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールにおいて各自自分の好きな席に座りテレビを見たり、新聞を読まれたり他者と会話したり等過ごされている。 | | |
| 56 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に、家族と相談しながら馴染みの家具や物を持ってきていただき、安心して過ごすことが出来るよう努めている。 | 利用者が長年大切に使っていた馴染みの家具や身の回りの物、大切な品物等を持ち込んで、生活環境が急変しないように取り組んでいる。利用者の身心の状態に合わせ、過ごしやすいように家具を設置し、利用者が安心して穏やかに暮らす事が出来るよう配慮している。また、清掃が行き届き、気持ち良く過ごせる居心地の良い居室である。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内には手すりを設置しており歩行可能な方には安全に歩行が出来るよう出来るだけ見守りを行ない歩行し、自立した生活が送れるよう努めている。 | | |